

ご飯もよく食べ活発に  
見える中年以降の猫は、  
甲状腺の病気を  
持っているかもしれません。



猫の甲状腺機能亢進症の検査をご紹介します。

# シニア猫の甲状腺機能亢進症検査

## 総サイロキシン(T<sub>4</sub>)検査

どんな検査ですか？

中年以降の猫に比較的好くみられる甲状腺機能亢進症という病気の確定診断には、一般的な身体検査、血液検査に加えて、甲状腺から分泌されるホルモンの血中の量を調べる検査が必要で、主にT<sub>4</sub>というホルモンを測定します。

このホルモンが過剰に分泌されると、体重減少や多食、活動亢進など様々な全身性の症状が引き起こされます。

※中年以降の猫は年2回の健康診断時のT<sub>4</sub>検査が推奨されています。

## この検査は何に役立つの？

甲状腺機能亢進症の猫はご飯を良く食べ、元気に見えることも多く、病気に気付かない場合もあります。

この検査を行うことで早期発見につながり、薬による治療を早期にはじめることができます。

## 検査は痛くないの？

少しの採血で、猫の体にほとんど負担がかかりません。



## 甲状腺機能亢進症はどんな病気？

- 中年以降の猫に多く見られる内分泌疾患です。
- 甲状腺腫瘍などが原因で、甲状腺から分泌されるサイロキシンというホルモンが過剰になることで発症します。
- 甲状腺ホルモンは体の機能を活発にする作用があります。  
ホルモン過剰による症状は様々です。
  - 体重減少
  - 多食
  - 活動亢進
  - 毛並みが悪くなる
  - 痩せてくる
  - 呼吸が速くなる、など

